

「おもい」所感

農林水産省農蚕園芸局
畑作振興課

矢野 哲男



いも類担当を拝命してはや2月近くが過ぎようとしている。これまで農林水産技術会議事務局や科学技術庁など、試験研究にかかわる仕事が多く、農作物の生産振興に直接携わるのは初めての経験である。あらためて考えてみるといも類には幼い頃からずいぶん世話になってきている。

《少年時代》

私の生家は愛媛県東予の農家で当時の多くの農家がそうであったように、いも類は自給し、いくばくかを出荷できるだけの量を栽培していた。

ありがたいことに飢えということには無縁の世代であるが、お菓子の類は乏しかった。そのため、甘しょは主食のみならず、おやつとしても随分重宝した。蒸したり、天ぷらにしたりというのは普通であるが、時にはしょうゆで煮たりして食べていたのを思い出す。どのような品種であったのか定かではないが、アメリカいもと呼んでいた白いものがあつたのも覚えている。

《北海道》

北海道の帯広に3年間住んでいた。入省と同時に北海道開発局に出向となり、帯広開発建設部に配属されたためである。新人研修を終えて4月半ばに赴任したのだが、その前日にドカ雪が降っており、白一色の雪原の中の飛行場に着陸したときの驚きは、いまだに新

鮮なものがある。

まず十勝の農業のスケールの大きさに感激したが、強烈に印象に残っているのが馬鈴しょの花である。5ha区画に整然と整地された広大な圃場一面に咲く男爵いものうす紫の花、メークイーンの紫色の花の美しさに目を奪われた。建設部で担当した直轄明渠排水の地区の受益地に、十勝馬鈴しょ原原種農場の圃場の一部が含まれており、その関係で農場に説明に出かけたことがあるが、まさか自分がこのような形で馬鈴しょにかかわることになるとは思ってもみなかった。

《家庭菜園》

以前、横浜の港南台の官舎に住んでいた頃、2坪ばかりの家庭菜園を作っていた。当初あてがわれた庭が、すぐ前に民家が新築されて日当たりが悪くなったので、官舎の片隅の空き地を勝手に開墾したのである。建設残土など石ころばかりであったのを、スコップ一つを武器に、結構手間をかけて深耕し、除礫した。

思い出してみると結構多くの作物を作っていたものだ。キュウリ、トマト、なす、ピーマン、ししとう、えだまめ、いんげん、カボチャ、大麦、イチゴ、馬鈴しょ、甘しょ、やまのいもなどである。中でも確実に収穫できたのがいも類である。ただし馬鈴しょはそこそこの味のものができののだが、甘しょの方はみかけはよいとしても味の方はどうにもならなかった。栽培技術と土壌のせいであろう。現在の官舎は中野にあり、新宿の都庁が目前に見えるという立地のよさであるが、当然のことながら官舎に庭はなく、やや味気ない思いをしている。